

# 「世界の架け橋—お茶」

F組ニモナ

お茶の文化の豊かな国と言えばイギリス、インド、中国、日本などがあげられます。人々の考えは大体この四つのお茶の王国に限られています。けれども私が生まれた所は最近意外に世界中のお茶を扱う小さなお茶屋が多くなってきました。そのため、まめな客やお茶を趣味にしている熱心なファンが増えってきました。あるお茶屋の弟子としての仕事のおかげで私はさまざまな知識が得られたのです。それ下、視野を少し広くするために、お茶は容易な飲み物に過ぎないか、お茶は本当は何かと説明したいと思います。

全ての言語の中にお茶の名前の語源は共通しています。なぜかという、言葉そのものは品物と一緒にお茶の古里の中国から輸入されたものです。ティーやタイ、テ、チャ、チヤイなど、現在のあがりゆる読み方は一つの漢字に基づいています。

お茶の発見の伝説は約2千年前のことだと  
言われています。この伝説によると、その発  
見は偶然でした。偶然と言っても、どの草が  
飲むのに安全だとはっきり分かるまでおそ  
く死傷者も出たのではないかと思います。当  
初、お茶は薬として飲んで、いやし効果のた  
めに飲まれはじめたのは後のことです。いま  
で本文に残された最も古いお茶に関する記録  
は紀元前10世紀のある医学の文章です。「苦  
い茶を飲む者は考えやすくなる」と書かれて  
います。

お茶が発見されてから人気は上がりつつあ  
ります。現在、水と比べると地球上に2番目  
に多くお茶が飲まれています。基本的に、お  
茶というのはお湯に入れた葉っぱによってで  
きた飲み物のことです。茶の木の葉っぱのみ  
ならず、ハーブや果物や木の皮などでもお茶  
の材料とされています。種類や好みもありま  
すが、お茶と一緒に出すものも国によって違  
います。極東で緑茶と葉子は人気で、イギリ

スにおいてお茶は牛乳と一緒に出したアール  
 ガレイに人気があるに違ひありません。贈呈  
 の手段として非常に多くのお茶は容易な飲み  
 物より複雑な用途があると言っても言い過ぎ  
 ではないでしょう。砂糖を初めはちみつやレ  
 モン、牛乳などの組み合わせも珍しくありませ  
 ん。スパイスなラシナモンやカルダモンま  
 であげられます。アーモンドを入れる人もい  
 ればシロップやお酒を入れる人もいます。

お茶は多くの集まりの中心です。どの国に  
 おいてもお茶の役割は重要文財に当たります。  
 多くの国では何よりもお茶を客に出すことは  
 礼儀として正しいです。けれどもある国では  
 お茶を入れることは身分の特権なのである。日  
 本の茶道と中国のゴンフー茶の湯はけっこう  
 有名で、独自性があり、まるで儀式のような  
 行事になっています。

道具には各種類にふさわしいティーポット  
 があり、お茶の入れ方や出し方はお茶の種類  
 によって違います。そして、お湯の温度が1

でも、葉っぱのつかう時間が一秒でも変われば結果に大きな影響を与えます。そのためお茶は科学の一部と言っても過言ではないでしょう。

各国にはそれぞれの入れ方があります。例えば茶道には特定の道具を決まった順番で使わなければなりません。しかし、あるお茶はふさわしい出しかたをせずに飲むというよくない習慣になってしまいました。結局、一つの種類のお茶にしか使っていないポットはそのお茶の香りが身につく一方、お茶はポットの特質を受け入れます。このように一杯のお茶は作品になるのです。

一度入れた一杯のお茶は二つとはない。中国での発見をきっかけとしてお茶は世界のすみずみへ広がっていきました。各国にはさまざまな考え方があっても、結局同じお茶で文化の共通点になるのです。つまりお茶は世界の架け橋となり、これからも世界の人々に飲まれ続けていくこと下しよう。